

学校名	大館市立山田小学校					校長名	北 條 寛 子				職員数	10	
所在地	大館市山田字寺下 2 4						郵便番号	0 1 8－3 5 0 2					
電話番号	0 1 8 6－5 4－3 0 3 0				FAX 番号		0 1 8 6－5 4－6 0 6 0						
学級数	学 級 数						児 童 生 徒 数						
児童 生徒数	1 年	23 年	45 年	6 年	特殊	計	1 年	23 年	45 年	6 年	特殊	計	
	1	1	1	1	1	5	4	6	8	6	1	2 5	
ホームページ	http://www.akita-c.ed.jp/~sch11572/												
研究主題	「インターネット TV 授業」を活用した授業改善を目指して												
研究主題 の 説 明 （設定理 由、研究 の視点、 研究の方 法等）	【設定理由】 本校の教育目標は、「学ぶ喜びをもち、心豊かで、たくましい子どもの育成」である。知・徳・体のバランスの取れた児童の育成を図るために、少人数ならではの児童理解を基盤とした、学校作り、学級作りを展開している。 学習面では、「よく考え、進んで学習する子ども」を児童像として掲げ、ねばり強く課題に取り組む、人と関わって学ぶ、主体的に学ぶことをねらった授業作りを心がけてきた。その結果、児童の姿として、課題を解決する力、人から学び取る力、進んで課題に取り組む意欲などに高まりが見られ、学習の基礎・基本も徐々に定着するようになってきた。また、ここ数年取り組んできた表現力の向上ということでは、音読や群読、劇などの積み重ねで、人前で堂々と発表できるようになってきた。 しかし、話し合いや練り合いなどの表現力、対話を基本としたコミュニケーション力、学習意欲の面で、まだまだ、改善の余地があると考えられる。また、児童数の減少に伴い、複式学級が2つになり、学習指導上の見とどけが必ずしも万全と言えない場面が見受けられた。 そこで、本校では、複式学級の学習指導の工夫に伴う基礎学力の定着、児童の学習の広がりや深まり、児童のコミュニケーション力の向上を図る、1つの方策として、インターネット TV 授業を取り入れることにした。児童に他校の児童や学習材との新たな出会いの場を設定し、秋田県総合教育センター（以下教育センターと表記する）の指導主事のきめ細かな指導の場を設けることによって、児童の学習意欲の向上、思考力や知識などの深まり、表現力の向上を図ることにした。また、他校の教員や教育センターの指導主事と、学習過程や指導技術、教材の分析についてリアルタイムで情報交換することが、本校職員の指導力の向上につながり、結果的に、児童の学習への意欲や												

学力の向上に還元されていくのではないかと期待している。

【研究の視点】

「インターネット TV 授業」は、小規模校である本校にとって、様々な教育的な効果を与えてくれると期待している。インターネット TV 授業実施1年目の本校としては、他の推進校の成果をふまえながらも、授業を実際にやってみて、わかったこと、課題になったことを積み重ねながら、研究を進めていきたい。本校の立場としては、研究を進めるにあたって、主として次の3つの視点で授業を積み重ねていきたいと考えた。

- ①複式学級での効果的な活用方法
- ②児童の学習の広がりや深まりを促す活用方法
- ③児童の表現力の向上に関わる活用方法

また、「インターネット TV 授業」推進事業全体として3年目にあたる今年の研究の重点は、「保護者や地域の人々へ活用を広げる」ということなので、本校でも何らかの形で、地域の人々、保護者の活用を模索していきたいと考えている。また、本校の実践の一端を何らかの形で紹介する場を設け、本事業への理解を深めていきたい。

＜本校の具体的活用内容＞

- ①複式学級での効果的な活用方法
 - 異学年異内容
 - 異学年同内容
 - 単級化
- ②児童の学習の広がりや深まりを促す活用方法
 - 地域によって内容の違いを知る学習
 - 同じ教材に対する考えの違いを知る
 - 他地点と連動しての変化を知る
- ③児童の表現力の向上に関わる活用方法
 - クイズ、絵本の紹介、合奏、踊りの発表
 - 話者に質問する、感想をもつなどの能動的な場面
 - 聞き手に対してプレゼンテーションの方法、話し方の工夫

＜研究推進にあたっての留意点＞

- ①授業活用の回数を重ねながら、教材、学習過程によっての向き、不向きを見極めていく。
- ②記録を蓄積しながら、成果と課題を明らかにしていく。
- ③打ち合わせを通して、学習のねらい、学習過程、教材観などを明瞭にして授業に臨む。
- ④児童の聞き方、話し方など、コミュニケーションの基礎となる力を育成する。

【研究方法】

- ・研究組織の確立（校内）
- ・TV 会議システムの活用希望調査（職員）

研究体制	・推進校の活用事例の情報収集 ・研究計画の立案（研究の重点） ・年間の授業計画の立案（対教育センター・対推進校） ・通信環境の整備 ・基礎的な研修ならびに機器操作講習会の実施（夏季休業中） ・授業参観、授業記録の蓄積 ・成果とまとめ	
	校長－教頭－ 研究推進委員会 ー全体研修会（全職員） （教務主任・研究主任）	
	組 織	構 成
	主 な 活 動	
研究推進委員会	校長・教頭 教務主任 研究主任	・研究全体の企画立案並びに推進 ・授業時間の調整・授業時数確保 ・通信環境の整備 ・全員研修会の企画、運営、連絡調整 ・研究情報の連絡・提供
全体研修会	全 職 員	・全体の方向性の決定 ・共通理解
研究計画		
	第 1 年次 （平成 1 7 年）	・研究組織の確立・通信環境整備・基礎的研修 ・活用例の情報収集・機器操作講習会 ・研究計画立案・授業計画の立案・成果と課題のまとめ
	第 2 年次 （平成 1 8 年）	・研究組織の確認・機器操作講習会の実施 ・授業計画の立案・授業参観日の設定 ・成果と課題のまとめ・次年度の研究計画の立案
	第 3 年次 （平成 1 9 年）	・研究組織の確認・機器操作講習会の実施 ・授業参観日の推進 ・授業計画の立案・成果と課題のまとめ